

雇用 農福連携

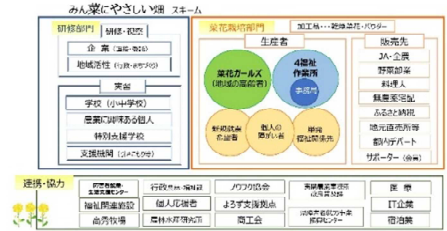
コミュニティ戦略でみんな活躍・菜花復活！

活動の経緯

循環酪農で有名な高秀牧場は堆肥活用し約20年食用菜花栽培を行ってきたが、労働力不足で終了。それを聞いた福祉施設が労働力協力で復活させようと提案。「じゃあ自分たちでやってみたら？」と高秀より事業承継し農業素人な福祉施設スタッフが無謀な農業経営、約4,500坪の菜花栽培はじまる。地域活動で高秀牧場と施設職員がそもそもつながっていたことでスムーズにはじめられた。

活動の概要

農福連携と地域コミュニティを最大限活用し食用菜花栽培・販売・農業の魅力伝える農業体験も行う。



菜花ガールズと施設利用者。初対面なのに

コミュニティ活用したスキーム

活動の成果、主な実績等

農業と福祉の連携は、地域内に障がい者の働く場、地域の困りごとを解決する方法としても、シンプルに成立することを本プロジェクトで見える化するため、地域の高齢者の活躍と福祉事業所の利用者とスタッフ約100名が参加し、夷隅地域の菜花出荷量の半分を担うことができた。

一次産業の楽しさ難しさ、すべての人の生きる元となっている職業であることを自身が栽培に関わることで感じ、一般の方、特に東京の企業人に知ってもらうための「畑にいろんな人が入りやすい仕組み」を作り約50名の方が畑で作業に関わった。

地域のつながりがある地方の強を活かして「できることはできる人に助けをもらおう」「専門知識を持つ人に仕事で関わってもらおう」組織建てをせず、やわらかな連携で固定人件費もかけず、欲しいときに欲しい人材に活躍してもらい、またその活躍を地域で褒め称える仕組みをIT使い(ラインワークス・ラインのビジネス版)等も活用する。菜花出荷量7.5ト。